



会員の声

名水探訪 立山方面

前田薬品工業(株) 立浪 智夫

9月28日、「立山玉殿の湧水」を目指し、バスで一気に雲上の室堂へ。

さすがは富山の一大観光地なだけあって観光客、登山者が多く室堂ターミナル屋上ではストリートピアノのイベントが開催されていて賑わいに拍車がかかっていました。

まずは水温、pH、硬度の簡易測定、集合写真後はみくりが池周辺を自然解説員さんのガイドと共に散策。室堂山荘にて昼食。その後、立山駅前の「熊王の水」へバス移動。

最終地の「龍神の湧水」へバス移動。場所が栗巣野の龍神と聞いててっきり登山道の途中かと思いましたが、自分がよく行くあわすのスキー場のゲレンデ内にあり、スノーボードの時期は雪で埋まっているため全然気づきませんでした。

今回の名水探訪に参加してみて、地元の水にこだわり蒸留の仕事をしている関係上、富山県内の名水を知ることが物作りをしている身として見ておくべきとの思いでした。

県内には至るところに名水が湧いており、地元のみならず沢山の方々に親しまれ愛されています。豊かな自然により、恵み多き名水が湧き、天然のいけすと称される富山湾に流れ国内外の人々に高く評価されています。名水王国の「とやまの名水を守る会」の名水探訪にまた参加したいと思いました。

地下水は誰のものか？

鈴木 康裕

昭和40年代頃より、地下水は、公共財産の性格が強い(地下水は流動し私有地に滞留しているものではない、周辺も含めた土地の環境機能の根幹をなす)とする立場の「公水論」と、土地所有者が井戸を設置して個人的に利用できるものであることから私的財産に含まれるとする「私水論」が議論されている。昭和30年代頃より激しくなった地盤沈下の原因が、地下水の揚水によるものと結論づけられた昭和40年代頃より始まった議論である。

法的には土地の所有権については「法令の制限内に於いて其の土地の上下に及ぶ」(民法207条)としていことから、地下水は私有財産とされているが、公水とする判例も出ている。

1990年代の中頃より地下水汚染が各地で表面化し、それまでの地盤沈下対策、そして世論の環境意識の向上により、地下水を公水として考える社会的背景が形成されてきている。一方、地下水は土地所有権に付随するという概念は、今なお残されていることに留意が必要である。



名水探訪～飛騨平湯・高山

油谷 絹代

晴天に恵まれて爽やかな朝の出発でした。

- ・奥飛騨温泉郷 タルマの滝では、ブルーのイルミネーションが点灯している砂防トンネルの中を歩いていくと、滝の裏側を見ることができました。滝の落ちる音の大きさに驚きました。タルマの水の味は、苦みがあり、弱アルカリで美肌水に最適だそう。
- ・平湯の大滝 日本の滝百選。64メートルから落ちる滝は、圧巻でした。
- ・高山 長寿の水は、冷たくて美味しい。地元の方が生活水に最適と。
- ・高山 砂場の清水は、生活水に最適。穴場の水。
- ・数河高原 タンナカ高原の水は、血糖値を下げると評判の水で酸化還元電位が最も低い清浄なミネラルウォーターで最高に美味しい水でした。



どれも、行ったことの無い名水探訪でした。お昼の朴葉みそ焼き キノコ三昧が美味しかったです。紅葉は少し残念でしたが、秋晴れの最高の日でした。(^^) ピーカンの晴天に恵まれて、森林浴・滝のパワーを頂いてきました！！

・ 展示発表 ・

10月25日26日
「ウイング・ウイング高岡祭」

硬度表・名水マップ・団体紹介のパネル3枚を展示し当会の活動を紹介しました。



コラム

PFAS(ピーファス)の知識

理事長 青木 正樹

最近ピーファス「有機フッ素化合物」のことが、よくマスコミに取り上げられています。

この化合物は4700種類以上の物質があるとされています。性質は水に溶けやすく撥水性、撥油性、熱に強い、薬品に強い、光を吸収しないなどの性質があります。何に使われているかというとフライパンのフッ素加工、殺虫剤、消火器、防水服、耐油・防水加工のパッケージなど多岐に渡ります。現在問題になっているのは、これらピーファスは自然界では分解されず生物の体内で蓄積されやすいことです。有害性や難分解性が確認されており、一部には発がん性や子供の成長に問題があるとアメリカの研究で指摘されています。

現状、日本の水道水の安全性は世界最高水準であり水質基準でPFASの目標値が設定され遵守した水質管理、浄水処理がされています。問題は廃棄物処理場が水源近くにあった場合に入り込む可能性が出ているので、現在そういった地域の水道水を使用していた自治体で問題があり、健康診断が実施されています。